

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 29 年 10 月 17 日発行

第 21 号

編集発行 鈴木史良

雑草「オオバコ」に学ぶ

—— 「ピンチ」を「チャンス」に切りかえる力を身につけたい ——

日本中どここの道端でも見つけられる雑草、オオバコ。私も子どもの頃、学校帰りに、オオバコの茎の長い花部をむしりにとって遊んだ思い出があります。友達の花茎と交差させて互いに引っ張り合い、先に茎が切れた方が負けとなる他愛のない遊びです。

その当時はこの草の名前すら知らなかったのですが、本校の中学生たちが使用している国語問題集の中に、オオバコについて記述された論説文問題があり、その内容を読んで、改めてオオバコの「すごさ」を知ることができました。私の、感動ともいえる驚きを、後期が始まる全校朝礼で子どもたちに話しました。

ここウスターでもオオバコが見られます。ウスター城のある丘の小道脇、持久走大会のスタート地点付近の道端に多く見られます。子どもたちはたいして気に止めることのない雑草でしょう。論説文の筆者によると、どこでも見られるオオバコが、不思議なことに道端を離れると、その姿は急激に減少し、林や森や山の中ではほとんど見られないそうです。

なぜだろう？ という疑問がわきました。道端だと人や自転車、車に踏まれやすく、植物が生育する環境としては決してよくはないはずです。この疑問について、筆者はオオバコの形状から説明を始めました。オオバコはひょろりと伸びた茎の上に、細かい雄花と雌花が密生した細長い花部があり、葉部は地面に低く広がっています。地表すれすれに葉を広げるオオバコは、背高く葉を広げる他のライバルたちに負けてしまい、太陽の光を十分浴びることができなくなります。自然界の生物は、どの生物も生き残るための競争、生存競争をしています。オオバコにとっても、光は大切なもの。しかし、背が低いので、他の植物の陰になる場所では生き残ることはできないのです。そんなオオバコでも生き残ることができる場所があるのでしょうか。筆者によると、オオバコは他の植物を圧倒する＜強み＞をもっているといいます。

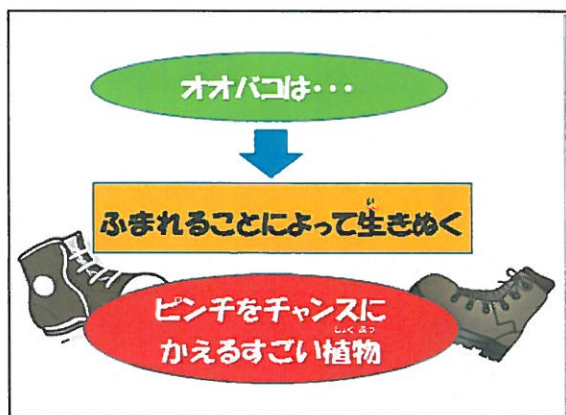
それは、他のライバルたちは人や車に踏まれると弱いのですが、オオバコは多少踏



まれても、その場所に根を張って生きていけるということ。換言すれば、オオバコが光を勝ちとるためには、むしろ人や車に踏まれるような場所に生えた方がよいのだということです。なんと自然界の真実！ 私は、まさにピンチをチャンスに変えるオオバコのすごさに驚嘆しました。

さらに筆者の説明によると、オオバコの種は、水分を含むと粘り気が出る性質を持ち、雨の日などに踏まれたときは、種が靴底に付いているんな所に移動でき、靴底からはがれた種が新しい場所で芽を出すのだそうです。文章の結びには、「道端のオオバコを踏んだことがある人は、オオバコがありがとうと感謝している。」との表現があり、ここまで筆者にたたみかけられると、私はぐうの音（ね）も出ませんでした。

「ピンチをチャンスに変える」という発想力は、親に帯同して海外の日本人学校に編入してきた子どもたちには必須のものだと思っています。この発想力をぜひ子どもたちと共有したいと考えます。中学生には、やや難しかったかもしれませんが、私の思いも込めて、自分の「置かれた場所で咲く」という言葉を紹介しました。



中2職場体験学習の事前訪問をして

10月16日（月）の6校時終了後、中学部2年生2名が職場体験学習場所の事前訪問をしました。今年度、体験学習する生徒たちを受け入れてくださったのは、パン&ケーキ工房ヒロ・タカハシさんです。チューリッヒ郊外アドリスヴィルにある店を訪問すると、オーナーの高橋さんが私たちを迎えてくださいました。甘い香りが店内に漂うなか、生徒たちは自己紹介カードを提出し、日時や仕事内容を確認しました。高橋さんから作業をするので汚れてもよい服装をすることと、怪我だけはしないように気をつけること等を教わりました。生徒たちの活動時間は朝9時からですが、高橋さんは午前4時には店に出て、仕込みやパン焼きをします。手伝ってくれてありがたい、と期待が込められたお言葉をいただきました。



ヒロ・タカハシ店内にて

後期開始時の児童生徒数（全校15名）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男	4	1	0	0	2	0	0	1	1
女	1	0	1	0	2	0	0	1	1
計	5	1	1	0	4	0	0	2	2